

第3章 復興まちづくりイメージトレーニングの実施

第3章では、復興まちづくりイメージトレーニングの実施に際して運営上の留意点等を掲載している。
復興まちづくりイメージトレーニングを実施する際、プログラムの進め方を検討する際に参考としていただきたい。

3-1 標準プログラム

□ 復興まちづくりイメージトレーニングの標準的なプログラムを再掲する。以下、標準的なプログラムに沿い、実施上の留意点をとりまとめる。

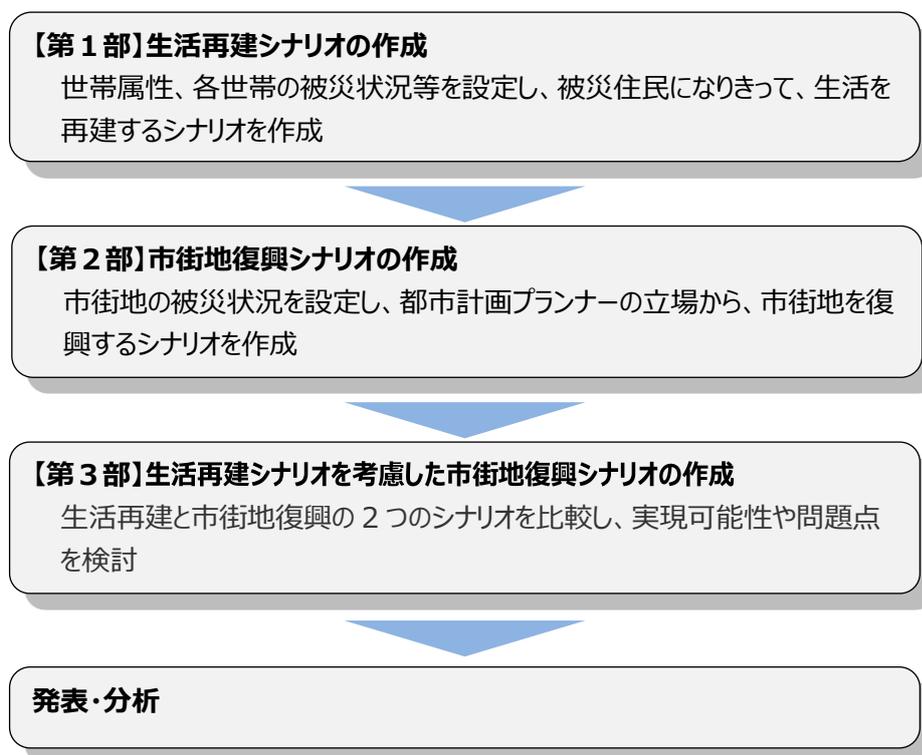


図 復興まちづくりイメージトレーニングの流れ（再掲）

3-2 復興まちづくりイメージトレーニングの実施内容

(1) 生活再建シナリオ作成の流れ

①「生活再建シナリオカード」の作成

- 復興まちづくりイメージトレーニングの実施に際して準備する資料を事前に参加者へ配布するとともに、一読していただき、かつ、生活再建シナリオや市街地復興シナリオをトレーニングの実施日までに検討してもらうことで、トレーニング全体の理解も進む。
- 各世帯につき生活再建のバリエーションを多数、検討できると、第 1 部で検討する生活再建支援策に厚みが増すとともに、第 3 部の市街地復興上の課題が多く出されると想定される。
- 2 人 1 組で「生活再建シナリオカード」を話し合い、検討することもあり得る。他の参加者の考え方が共有できるというメリットがあるが、一方でプログラム上、検討時間がとられる、各世帯の生活再建のバリエーションがなくなるというデメリットもある。2 人 1 組で検討した場合でも意見を 1 つに集約する必要はなく、複数のシナリオが出てくるほうがむしろ望ましい。
- 被災世帯の居住場所について、具体的な地番まで設定していない理由として、市街地復興シナリオを検討する際に被災世帯がどこに居住しているのかも含めて想像してもらいながら検討を進めることとしているためである。被害想定図とともに、対象地区内のどこにその世帯が居住しているのか、仮に確定しても良い。

② 作成した「生活再建シナリオカード」の発表

- 発表前に検討した生活再建シナリオを付箋紙（ポストイット）に各自、書き出すと要点がまとめられ、かつ発表時間短縮にも繋がる。
- なお、付箋紙（ポストイット）には、文章で書くのではなく、キーワードを記載するに留めるとよい（模造紙を成果品として取りまとめる際、記載内容がわからないことにならない程度）。
- 1 グループ、8 人で班構成した場合、発表に時間が割かれるため工夫が必要である。1 世帯を 2 人で担当した場合は発表の前に意見交換の時間を設けるなど。

③ 生活再建シナリオのまとめ

- まとめる段階で、1 世帯の生活再建シナリオを 1 つに収斂する必要はない（ただし、同様な意見は付箋紙（ポストイット）を重ねて貼るなど整理上、工夫する）。
- 複数のシナリオがあれば、模造紙上に整理しておく。第 1 部で検討する生活再建支援策に厚みが増すとともに、第 3 部の市街地復興上の課題が多く出されると想定される。
- 「生活再建シナリオカード」と「作業用模造紙」の表頭の項目は揃え、シナリオカードで検討した内容を付箋紙（ポストイット）に転記し整理しやすくする。

④ 生活再建支援策の検討

- 生活再建支援策を十分に検討できるようプログラム上、時間を確保するとともに、進行役（ファシリテーター）も生活再建支援策の検討に時間を割けるよう意識する。
- すでに利用可能な制度とともに、現時点で存在しない制度、今後検討すべき制度も検討する。

- 現時点で存在しない制度、今後検討すべき制度については、当該地方公共団体、国・県での検討の俎上に載せていくことが望ましい（復興事前準備を推進する）。

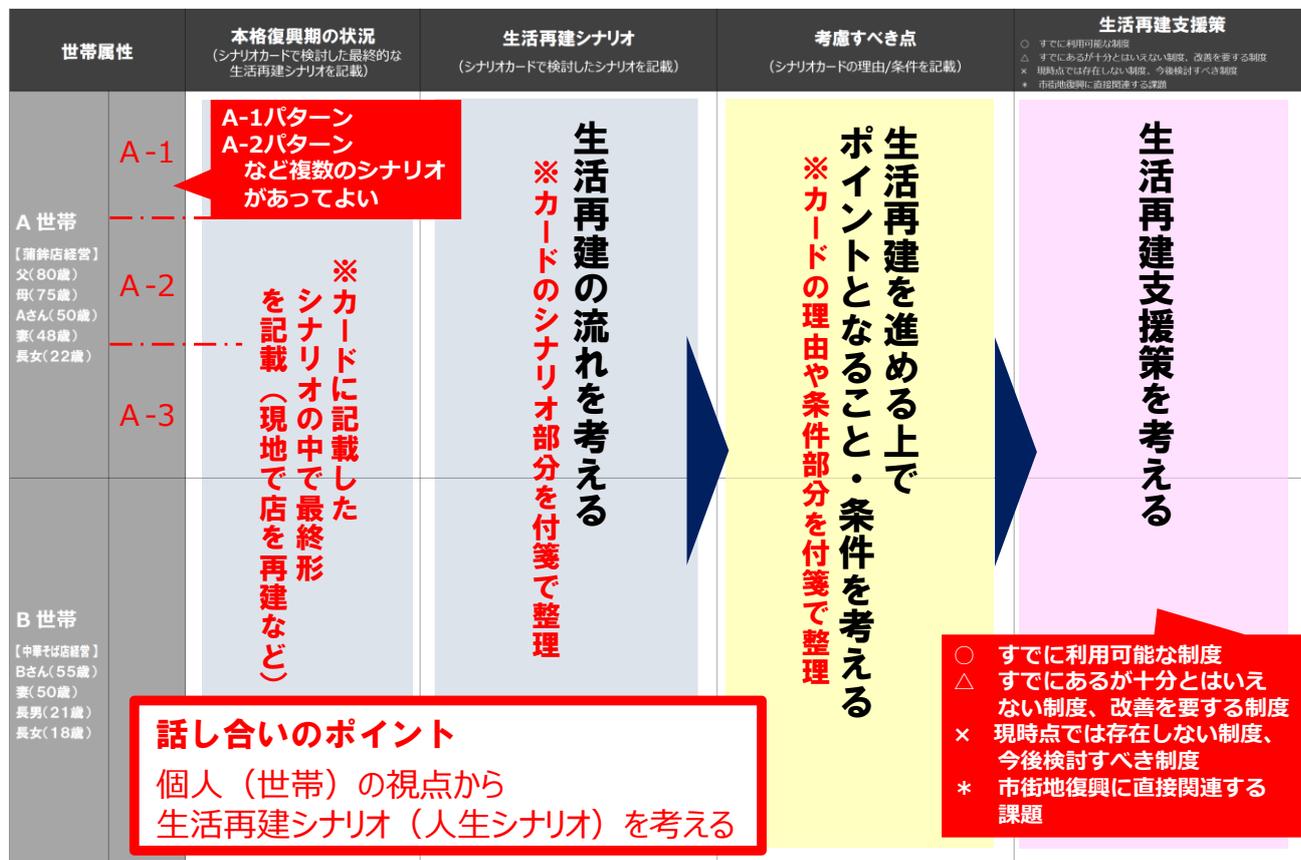


図 第1部の作業

⑤全体発表

- プログラム上、第1部の内容を各班から発表する時間を設けられれば実施する。（第1部から第3部までの検討結果を、第3部の終了後、通して発表する方法もある。）
- なお、各班から生活再建シナリオを発表する際、各班5分で発表と時間を決めたら、その時間内に発表することとする（時間が来たら発表を打ち切る）。
- 時間が許せば、意見交換の時間を設け、班相互の検討内容を深める。
- 学識経験者がアドバイザーとして入る際は、良い点や検討を深めた方よい点、生活再建支援策へのアドバイスなどをもらって第1部の内容に深みが増す。

(2) 市街地復興シナリオ作成の流れ

①「市街地復興シナリオカード」の作成

- 第 1 部で実施した各世帯の生活再建シナリオから離れて、都市計画プランナーの視点から自由な発想で検討することが大切である。
- 都市部局の職員で復興イメージトレーニングを実施する際、「市街地復興シナリオカード」を各自で作成しなくとも、議論を開始できる場合は、省略してもかまわない。
- 対象地区の人口動向や都市基盤の状況等を踏まえて検討する。都市計画マスタープランの内容や、防災都市づくり計画を策定していれば、その内容を参考に検討することとするが、既存計画の内容に引っ張られすぎないように注意する必要がある。
- 対象地区をあまり知らない行政職員等が多く参加する場合は、対象地区の航空写真に被害想定図を重ね合わせて閲覧できるようにすることや、対象地区の市街地状況をインターネットで閲覧できるようにすることで、市街地状況を理解してもらうことも考えられる。
- 既存の事業手法・制度にとらわれることなく検討することも大切である。
- 平成 28 年度に復興まちづくりイメージトレーニングを試行実施した京都市では、最終的に「京都らしい」復興の姿を検討することを主眼とし、「現行の事業制度を活用しシナリオを検討するグループ（市街地の抜本的改善）」を 3 班、「事業制度を無視し『京都らしさ』を考慮したシナリオを検討するグループ」を 3 班構成し、グループワークを実施した。【京都府京都市の事例】
- 市街地復興を考える前に対象地区の課題を図面上で整理し（細街路、密集した市街地、既存不適格で従前の建ぺい率や容積率では住宅を再建できない等）、共有しておくことも考えられる。そうすることで、課題を参加者で共有でき、共通認識のもと市街地の復興を考えることができる。【埼玉県事例】

②市街地復興シナリオの検討・まとめ

- 市街地復興シナリオは、土地利用、みどり・景観、主要道路、区画街路・細街路、公園・オープンスペース、公共施設、戸建住宅、集合住宅、商業施設などの空間要素別に検討してみると頭の整理が進む。ただし、上記はあくまでも検討の視点であり、時間内に全ての要素を検討しなければならないということではない。
- また、最初に地区の復興方針（将来ビジョン）を参加者で共有しておくこと、より具体的な市街地復興シナリオとなるとともに、空間要素間の関連性も明確になると考えられる。
- 相反する意見が出された場合、収斂する必要はない。市街地復興上の代替案にもなると考えられるので、付箋紙（ポストイット）に書きとめ整理しておくこととする。
- 市街地復興シナリオの内容は、対象地区の白図に整理（マジックで図面に直接記入しても可）していくことで、場所の概念とともに、被災世帯との関連性（都市計画道路を整備する場合、区画整理、再開発など事業手法との関連）が浮き上がってくる（第 3 部で市街地復興の課題やまちづくり制度を検討する際に重要）。
- また、市街地復興を進める際の課題（事業手法上の課題など）を議論する（第 3 部でまとめて検討しても可）。
- 事業手法（土地区画整理、市街地再開発、その他）の概要について、簡易的な解説資料があると、どのような事業手法をとるか、また、手法の欠点が理解できる。都市計画部局以外の職員が参加する場合は、用意しておくが良い。

※この被害想定は今回のトレーニング用に作成したものであり、実際の被害を想定したものではありません。

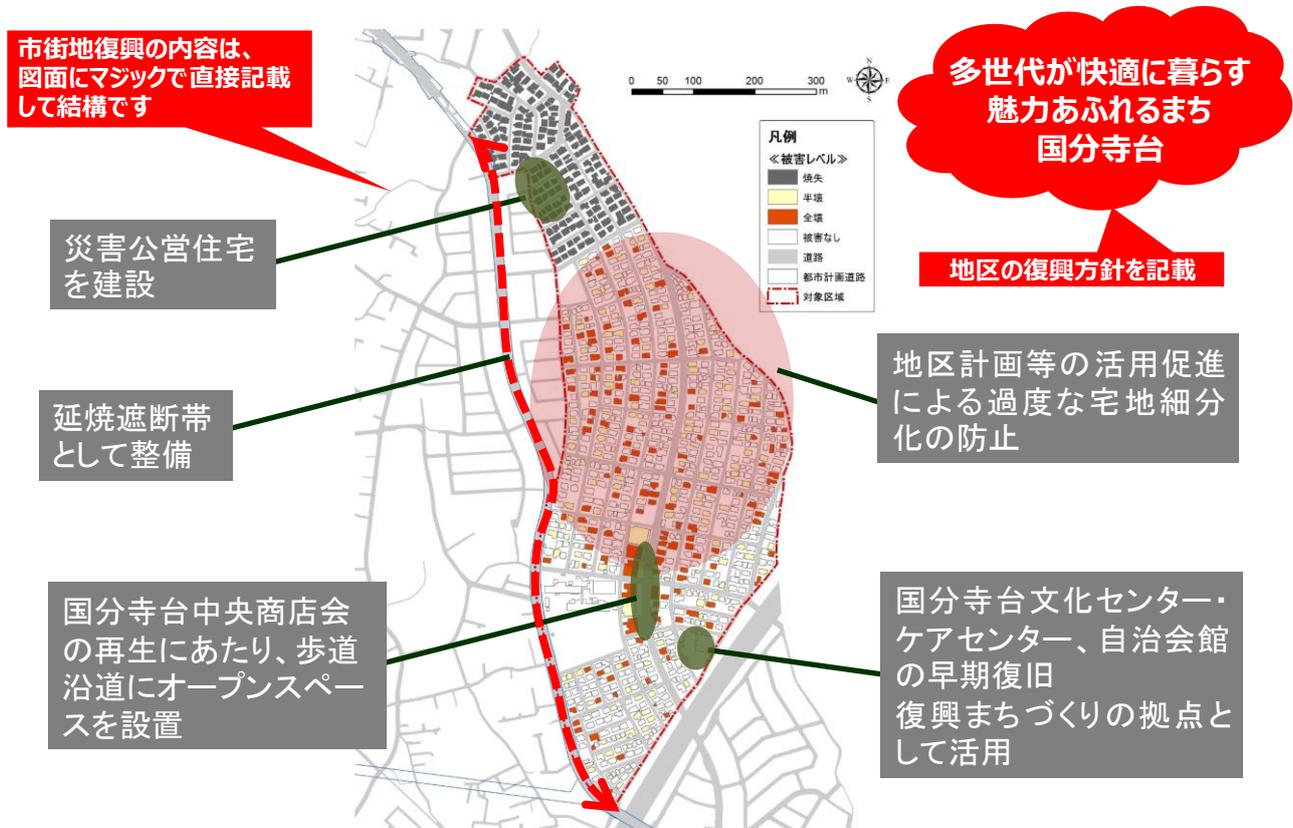


図 第2部の作業

③全体発表

- プログラム上、第2部の内容を各班から発表する時間を設けられれば実施する。（第1部から第3部までの検討結果を、第3部の終了後、通して発表する方法もある。）
- なお、各班から市街地復興シナリオを発表する際、各班5分で発表と時間を決めたら、その時間内に発表すること（時間が来たら発表を打ち切る）。
- 時間が許せば、意見交換の時間を設け、班相互の検討内容を深める
- 学識経験者がアドバイザーとして入る際は、良い点や検討を深めた方よい点、事業手法・まちづくり制度へのアドバイスなどをもらおうと第2部の内容に深みが増す。

(3) 生活再建シナリオを踏まえた市街地復興シナリオ検討の流れ

①生活再建シナリオを踏まえた市街地復興シナリオ検討

- まず、市街地復興シナリオに関係する生活再建シナリオを整理する。
- 第2部で検討した市街地復興シナリオの課題（問題点、条件）を、生活再建シナリオに照らし合わせて議論する。
- 市街地復興のプロセス、必要な生活再建支援策、まちづくり制度（今ない制度でも可）などを検討する。また、平常時から取り組んでおく対策を検討しても良い。



図 第3部の作業

②全体発表

- プログラム上、第3部の内容を各班から発表する時間を設けられれば実施する。（第1部から第3部までの検討結果を、第3部の終了後、通して発表する方法もある。）
- なお、各班から市街地復興シナリオを発表する際、各班5分で発表と時間を決めたら、その時間内に発表すること（時間が来たら発表を打ち切る）。
- 時間が許せば、意見交換の時間を設け、班相互の検討内容を深める
- 学識経験者がアドバイザーとして入る際は、良い点や検討を深めた方よい点、事業手法・まちづくり制度へのアドバイスなどをもらおうと第3部の内容に深みが増す。

3-3 復興まちづくりイメージトレーニングの結果のとりまとめ

- 検討結果を整理した模造紙、議事要旨を整理する。
- 復興まちづくりイメージトレーニング手法の改善点を整理（参加者意見の把握（事後アンケートの実施、ヒアリングの実施など））する。
- 復興課題の抽出・整理を行い復興事前準備の検討に活かす。
- 埼玉県においては、復興まちづくりイメージトレーニングの実施結果をもとに生活再建支援策や復興まちづくりの事業手法について、学識経験者を入れたワーキンググループで検討を行っている。

3-4 結果の活用方法

- 復興まちづくりイメージトレーニングの内容の充実化を図り、継続的に職員研修を実施する。
- 復興イメージトレーニングの結果を踏まえ、復興事前準備を検討する（関係部局において、平常時から推進すべき復興対策を検討、生活再建支援策やまちづくり制度の新たな検討など）。
- 都市復興計画の事前検討や復興マニュアルの改定へ活用する。

埼玉県の復興まちづくりイメージトレーニングの位置付け

- 「埼玉県地域防災計画 震災対策編」のもとに「埼玉県震災都市復興の手引き（事前の取組編）」を位置付け、復興まちづくりイメージトレーニングを実施している。
- 復興まちづくりイメージトレーニングは「訓練の実施」「知識・ノウハウの蓄積」「人材の確保」の3点を主眼におき実施

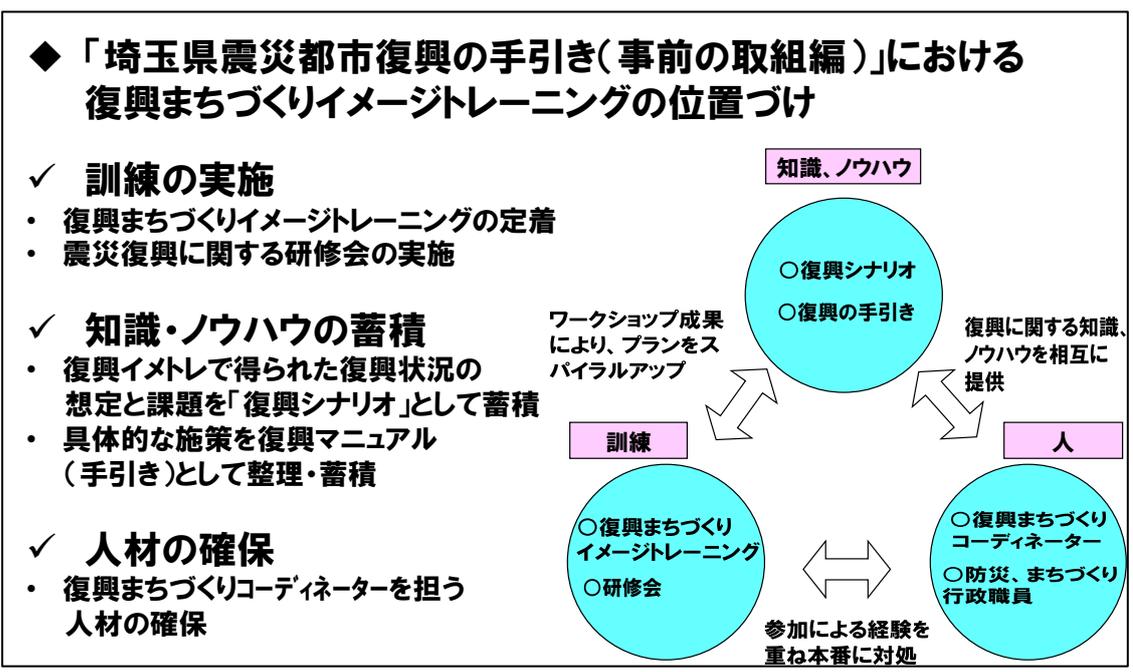
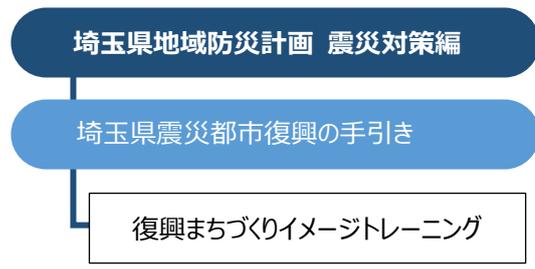


図 埼玉県の復興まちづくりイメージトレーニングの位置付け

埼玉県さいたま市の復興まちづくりイメージトレーニングの位置付け

- さいたま市では、防災都市づくり計画を策定しており、計画の中で、「事前」「復旧」「復興」の3つの視点から、4つの基本方針を設定している。
- 復興まちづくりイメージトレーニングは上記の中で、「復興」の部分において、被災したまちの復興に備えるという視点から実施している。

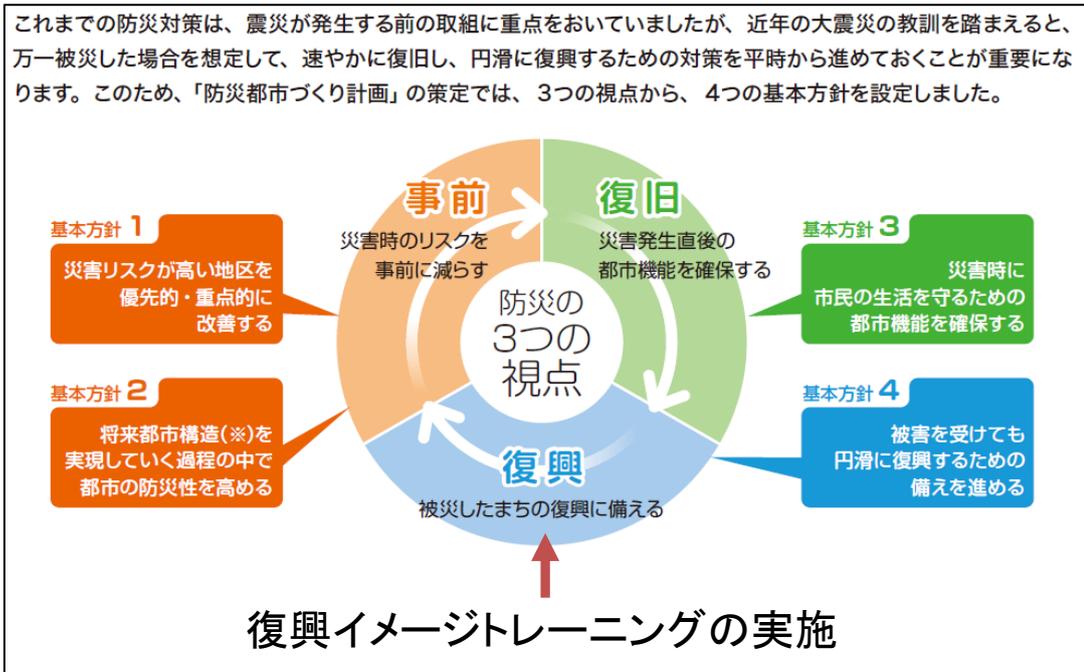


図 さいたま市の復興まちづくりイメージトレーニングの位置付け